

ごあいさつ

光市は、白砂青松の虹ヶ浜・室積両海岸、緑豊かな峨嵋山や石城山、そして母なる川である島田川など、美しい海・山・川に生まれ、長い年月にわたり、守り続けられてきた豊かな自然環境を有する都市環境の充実したまちです。

また、平成 17 年度には全国に先駆け、自然の恵みに感謝し、自然を敬愛し、自然の摂理にかなった、快適でうるおいとやすらぎのあるまちづくりを進めるため、「自然敬愛都市」を宣言しました。

光市水道事業は、この豊かな自然の恩恵を受けた島田川の伏流水という清浄な水源をもって、良質な水の供給を行っています。

現在、光市では、平成 19 年 3 月に策定した光市総合計画において、基本理念を「共創と協働で育むまちづくり」として、まちの将来像である「人と自然がきらめく 生活創造都市」の実現に向けて、諸施策に取り組んでいます。

こうした中、平成 19 年度に策定した「環境基本計画」の基礎資料として実施した市民ア

ンケートでは、光市の優位性の一つとして、「水道水のおいしさ」が挙げられました。市民生活と深い関わりのある水道は、暮らしの基礎となる重要な都市基盤であると同時に、「まちづくり」に欠かすことのできない大切な施設です。

私たちが、偉大なる先人たちから受け継いできた母なる川・島田川の恩恵を、市民の皆様をはじめ各企業と行政との共創と協働により、次世代へと継承し、島田川の良質な水が「人と自然がきらめく 生活創造都市」実現の一翼を担い、市民生活の支えとなることを願っております。



光市長 末岡泰義

ひかりかがやく水のまち ～光市水道光合成プラン～ 策定にあたって

光市の水道事業は、戦後間もない昭和 20 年、旧海軍工廠の専用水道を引き継ぎ、その産声をあげました。その後、現在に至るまで、半世紀以上にわたって、豊かな伏流水を有する島田川の恩恵を受け、安全な水を安定して給水することにより光市民の生活を支えてきました。

この間、戦後の荒廃からの復興を目指した創設期、高度経済成長期突入を契機に給水工リ

アの拡大に努めた拡張期など、様々な時代を経験してきましたが、その根底には常に生活の支えとなる水を供給し続けるという一貫した目的・役割がありました。

施設の老朽化に伴う施設更新・高水準化期を迎えている現在においても、その目的は変わりませんが、ライフスタイルの変化などにより、水道に対するお客さまニーズは複雑化・多様化しており、水道サービスの高水準化や水源保全を含んだ環境への取り組みなど、新たな役割が求められています。

その一方で、施設更新期の到来は、大規模な更新工事による減価償却費の増加という問題を引き起こし、昭和 59 年以來 23 年間据え置かれていた水道料金改定を行う要因ともなりました。

しかしながら、新料金の算定にあたっては、激変的な改定を回避するために維持修繕費や災害リスクに対する財源が十分に考慮されておらず、今なお、適正な料金水準であるとは言えません。そのため、平成 20 年度からの工場用水の大幅な使用量減少という水需要予測も踏まえながら、ライフラインの確保・サービス低下を招かないことを基本として、再度、維持修繕費や災害リスクの財源も考慮した、料金原価の算出を行っていくことが必要になってきます。

このように水道事業を取り巻く状況はさらに厳しさを増していくことが考えられますが、水道は人々の生活に必要不可欠なものであり、創設期よりの一貫した目的である常に生活の支えとなる水を供給し続けることが、私たち水道事業者の使命であると考えています。

今後、この「ひかりかがやく水のまち～光市水道光合成プラン～」を基礎とした、様々な事業・施策を着実に実行していくことで、水道サービスの高水準化に努めるとともに、脈々と次世代へ受け継がれる水道の構築に尽力していきたいと思っております。

最後に、地域水道ビジョンの策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました皆様をはじめ、市議会並びに関係各位に対しまして、心からお礼を申し上げますとともに、本ビジョンの実現に向けて、皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



光市水道事業管理者
水道局長 福島 正